

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173200930		
法人名	(株)メディカル・コンサルタンツ		
事業所名	グループホーム いこいの里		
所在地	埼玉県比企郡鳩山町大橋984-1		
自己評価作成日	平成22年12月8日	評価結果市町村受理日	平成23年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1173200930&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

料理や家事の日常生活を利用者を中心として行い、出切る事の喜びや張り合いに繋いでいる。職員のチームワークが良く笑顔が絶えない、職員の離職も少なく馴染みの関係を築き、利用者の安心感にも繋がっている。ご家族に利用者の状況を面会時や月々のお手紙でお知らせし安心感を持って頂けるよう取り組んでいる。福祉車両の購入により、買物支援や季節の花々や景色を楽しむなど外出支援に取り組んでいる。多数のボランティアを受入れ楽しみの場と地域との繋がりをもうけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋の建物の周囲は静かな環境で、初冬の枯れた色合いが美しい。同じ建物内でA、B2ユニットにて運営されている。玄関を上がるとガラス越しに景色が広がり、そこが両棟共通の中庭となっている、ホーム内は広く綺麗で清潔である。管理者、職員、入居者の明るい笑顔が印象的で、入居者は両棟を自由に往来し、馴染みの関係が出来ている。職員の離職が少なく、落ち着いて働き、入居者の持てる力を発揮出来るように支援している。ホーム長を支え、よりよいホームを目指し、研修を受け、目標を持って活躍している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「地域との連携による利用者本位の生活の場を鳩山で」を掲げている。日常介護の中で必要に応じて随時伝え、実践に取り組んでいる。	掲げる理念を職員は各自の名札の裏に入れ、意識を高めている。事業所が地域から孤立しないようにし、入居者の「鳩山で共に生きる住まい」となるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、近隣在住のボランティアの方を積極的に受け入れたり、気軽に立ち寄り日常的はお付き合いが出来るよう努めている。社会福祉協議会が主催する小・中学生のボランティア体験など積極的に受け入れている。	地域の方との交流が盛んで、習字・絵手紙・折り紙・傾聴等ボランティアを積極的に受入れている。認知症の勉強会、社会体験の学生を毎年受入れ、感想文が寄せられ、共に励みとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生社会体験チャレンジ受入れを行い、その中で認知症サポート講習を行い理解を深めてもらったり、認知症サポート講習で地域の方々に認知症の理解を深める取り組みを実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に行ない、2ヶ月間の事業報告を通し理解を得ている。話し合いの中で伺った意見はサービス向上に反映するよう努めている。	2ヶ月毎に会議を開催し、地域より多数の方の出席を得、事業所の取り組みをお知らせし、委員の方から防火安全体制確保について提案があり、消防団8名の方が施設を見学し、その後会議に出席、助言を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者支援課、包括支援センターと密に連絡をとり相談しながら連携をとっている。利用者のニーズに合わせたボランティアの依頼などの相談も行っている。	市町村担当者、包括支援センターとは協力関係ができていて、ボランティアを紹介して頂いたり、毎月の情報交換会に出席し、他事業所から学んだり、困り事を相談し、ケアサービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関は施錠はしていない。居室の鍵は利用者が掛けることはあっても、職員が掛けることはない。利用者の自由意志での行動を見守っている。	マニュアルに沿った研修会を実施し、弊害について検討し、職員の都合で拘束する事無く、目配り、気配りが出来るように管理者、職員間で話し合い、自由な行動を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の機会を設け職員に伝え防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加した職員を講師として、内部研修の機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族と契約書・重要事項説明書を読み合わせ、丁寧に説明し、不安や疑問点を伺い、十分な理解を得た上で契約を行なっている。解約時には、利用者や家族の不安を除きながら、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・不満・苦情に関しては、出来る限り言える環境作りを行い、コミュニケーションを心掛けている。玄関に苦情ポストの設置や第三者委員の連絡先を明示し職員以外での言える環境が出来ている。	度々面会に来られる方とは顔馴染みの関係で、話易く、他の方には電話で様子をお知らせしている。着替に関し率直な指摘があり、心配りの不足を見直し、次の支援につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回は管理者及びリーダーとの打ち合わせ会を持ち提案等の意見を聞く機会を持っている。	日々職員から前向きな提案があり、管理者は提案の理由を聞き、代表者に伝え、運営に反映している。車椅子使用の方が増え、福祉車両購入の提案があり、2台購入した事により、外出支援が容易になった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員達の勤務評価は昇給、賞与支給時に作成する人事評価へ反映している。就業規則の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者と一緒に一人ひとりの職務知識を把握し、内部研修、外部研修を受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度、地域の方々と運営推進会議の場をもち情報交換、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	さり気なく見守り、利用者の不安、要望等充分耳を傾け、利用者の意志、思いを尊重しつつ不安軽減の対策、声掛けに努め、安心感をもっていただけるよう職員との信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安なこと、分からないことに傾聴姿勢を重視し、信頼関係作りに努めている。入所後の様子を連絡し安心感が得られるよう対処している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に充分、本人と家族が何を求めているか傾聴姿勢を重視しながら見極め、いこいの里の方針を説明しながら、他の介護サービスの説明も同時に行ない利用者選択を広げるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に生活を送り、共に助け合っていく関係を築いている。人生の先輩である利用者から調理を始め、生活上の知恵を教えて下さることも多く支え合う関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時や随時連絡をとりあい、入所前の利用者の生活を把握するよう心掛け、利用者と家族が入所後もより良い関係が築けるように努めている。介護計画に面会や外出のお願いをし協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会は家族と相談しながらその場を心掛けている。馴染みの場所に関しては家族の協力を得ながら支援に努めている。	入居前にお琴を習っていた方に、琴の先生を探しボランティアでお願いしたり、家族の了解を得て、馴染みの友達と一緒に選挙の投票に出掛けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活全般を通して利用者同士が関わり合えるよう取り組んでいる。利用者一人ひとりの個性を重視し、無理強いしない声掛けを職員が心掛け、時には間に入り利用者同士のより良い関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	包括支援センター、居宅ケアマネや家族に連絡し、その後の状況を聞いている。退所後訪問し相談もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護サービス計画作成時に生活全般に対する利用者の思いや意向を聴きとり、意向に沿った介護サービス計画書を作成し、本人の思いを大切にしている。聞き取り困難な利用者には日頃の様子と家族の意向を伺いながら検討している	日常のお世話の中から表情を観察し、気持ちをくみ取り、家族との意向のずれが無いように努めている。認知症の理解を深めて頂けるように、養成講座へ家族の参加を呼び掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴を家族の協力を得ながら把握するように努めている。入所後も利用者の馴染みなこと、暮らし方などを踏まえた上での生活になるよう心掛けている。またそれを職員全員が把握し、共有できるよう連絡帳などに記載している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者意向に沿うように見守り、本人の満足度を図りながらも心身状態、有する力等については、毎日の申し送り、定期的なアセスメントを行い、見直し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意向、家族の意向を取り上げ、日々の様子観察などから介護計画書(案)を立て、利用者、家族、職員参加によるサービス担当者会議を開催し、意見を反映しながら介護計画を作成している。	本人、家族から話を伺い、更に日頃の行動パターンを観察記録し、担当者会議で検討し、介護計画に反映している。設定した見直しの他、容態変化の臨機応変な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は利用者個人ノートに記録し、申し送り時や月1回行なわれているフロアー会議時に職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族状況の変化により、支払い困難になった方に関して生活保護申請の相談にのり、解決を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月定期的にボランティアの方達が係っており、その都度利用者意向を伺いながら参加している。町で行っている行事等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院が道路隔てた所にあり、利用者・家族毎の要望を担当医に伝えている。受診時にはその都度必要な記録を取りながら継続支援を行なっている。緊急を要する場合にも家族の意向を十分に聴き入れ対応している。	かかりつけ医の受診は家族にお願いし、その都度情報を共有している。月1回の協力医への受診の際は、容態を伝え、受診内容を記録し、本人、家族の要望を医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師が2名おり、日常の健康管理や、アドバイスを得ながら介護職員と連携を図っている。看護師と職員との連絡ノートを作り質問等があった場合は役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には、入院先に面会に行き、家族と連携しながら担当医師に情報を提供したり、入院後に留意しなければいけない点等を伺い退院後の支援に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した家族にはその都度状態を報告し、出来るだけ面会を呼びかけ担当医師と繰り返し話し合いながら取り組む方針です。	昨年一人の方を看取り、医師、家族、看護師、職員がその都度、話し合い、確認し、対応した貴重な経験を、今後の終末期に向けた指針作りに活かす取り組みを目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。急変時はマニュアルに添って慌てることなく対処している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアル、職員緊急連絡網を作成し、それに沿った訓練を行なっている。火災訓練は年2回行ない、地元消防団に運営推進会議に参加して頂き協力を得ている。	第一に火災を出さない、初期消火をする事を徹底している。火災訓練は年2回消防団の指導の下で行い、避難口・避難経路についてアドバイスを得、運営推進会議に於いても協力を頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの心を尊重し、利用者の気持ちに即した介護支援を心掛けている。	尊厳とプライバシーの確保は、人間としての基本であり、相手の気持ちや家族の立場になり、言葉掛け、行動に注意するように話し合いをしている。	職員が入居者に向けて発している言葉の内容や語調が、本人の尊厳を無視した対応になっていないか検討し、理解を深める事が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話の中から得られた利用者の思いや希望は連絡ノートの記入や申し送りで職員全体で話し合い支援を行なっている。また思いや希望が言いやすい雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどう過ごしたいか、利用者の意向を尊重しながら見守り、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容に関しては美容師さんが月1回ホームに来る、利用者本人と相談しながら希望する髪型にしている。身だしなみ、おしゃれに関しては衣類の中から利用者の希望を聞きながら職員が支援している。買物口に洋服を購入するこもする		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りは利用者とは毎回相談しながら、利用者の希望、意向を取り入れている。「季節の旬のものは何？」など会話も弾んでいる。食事作り、後片付けも職員、利用者と一緒に取り組んでいる。	リビングに面した台所が、使いやすい作りと広さであり、中にテーブルと椅子がある。元気な方は自分の役割を心得て自由に入出し、おしゃべりや歌いながらお手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の持病を把握し食事摂取量を調整している。自力で水分摂取の出来ない利用者には水分摂取表の活用も取り入れ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕食後1日3回の口腔ケアを実践している。利用者一人ひとりの力に合わせて見守り、声掛け、介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの力や排泄のパターンに合わせ、見守りや時間での誘導を行なっている。その取り組みの中で紙パンツから安心パンツになった利用者がある。	排泄記録表を見て、排泄を促し、日中は安心パンツで過ごせるように支援している。排泄時の見守りから自立へと本人の意思で排泄出来るようトイレ入り口にセンサーを付け、事故の無いよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜やヨーグルトを多く取り入れたり、水分補給、歩行運動の取り組みを行なっている。排便表の記入により排便状態の把握、申し送りの徹底を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望や湯の温度など職員が共通理解しており、入浴の時間などは利用者毎に伺い希望に添えるよう努めている。	希望に合わせた入浴支援を行い、職員は一人一人を良く把握し、好きなお湯かげんに調節している。菖蒲湯や柚子湯など季節を感じる入浴を行い、入浴後の塗り薬もマニュアルに沿って対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者意向で見守りが行なわれている。季節の変わり目など、寝具やアンカや電気毛布の配慮を行い、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診ファイルに服薬後の変化や状況を記入し、受診時に担当医師に報告、相談を行い、誤薬の無いよう4回の服薬チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の入所前の生活歴を把握し、一人ひとりに合わせた役割、楽しみごとを支援し張り合いのある生活を過ごせるよう努め、介護計画書に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物、イベント(初詣・いちご狩り・棒物公園)への外出支援に取り組んでいる。季節の花々や景色を楽しんでいただけるようドライブへ出掛けたり、平和資料館の見学を行っている。介護計画の中に家族へ外出のお願いを取り入れ理解を得ている。	四季折々の花見の他、天気の良い日は朝ミーティングで即日に出発を決め、おにぎりや飲料水を持って出掛ける事もある。花前線のニュースも参考にし、本人希望の個別支援の外出をこれから実施したいと考えている。	買物時にゆっくり店内を見て回り、物を選ぶ楽しみを味わって頂けるような、個別の外出の機会を作り、本人に合わせた移動の工夫をし、進めていく事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物同行時の利用者支援のひとつに財布を持参し、利用者が買物を楽しめることを見守り、おやつ類や衣類など家族の了解を得ながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話を掛けたい意向があるときにはいつでもできるよう支援している。絵手紙ボランティアによる年賀状や暑中見舞いを家族や知人に書く支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋作りで共有の空間からは中庭や周りの景色をみることで季節を感じる事が出来る。浴室は床暖房になっており、冬場、他居室やリビング等との温度差のないよう考慮している。	共用の空間は明るく清潔で、ガラス窓が大きく、外の景色を楽しめる。ソファに腰かけて新聞を読んでいたり、床掃除をしている方と、それぞれ自由に過ごし、両棟の往来も自由で、馴染みの方の会話も日課となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人になれたり、リビング、利用者居室を利用しながら自由に過ごしたり、会話を楽しんでいる。A棟とB棟は自由に行き来が出来、利用者はフロア毎に関係なく交流し会話を楽しんでいる、		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家具や使いなれた馴染みの生活用品、装飾品等持込が出来る旨を利用者、家族に説明し、一人ひとりの好みに応じた居心地よく過ごせる配慮、工夫をしている。	各居室に洗面台が備えられ、ソファや小さなテーブルを置き、本人、家族も落ち着ける場所となっている。家から持ち込んだ品を飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のないバリアフリーの建物で、必要に応じ手すり、滑り止めが設置されている。キッチンが広く設計されていて、利用者が食事作りに参加しやすくなっている。		